

2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[七尾市立小丸山小学校] 担当教諭名[中村 江里奈] (3年2組 32名)

交流相手国[ジンバブエ]

海外学校名[Helena Infant School] 担当教諭名[Chipo Marunda, Peggie Shangwa]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	アートマイルプロジェクト	25

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	Happiness is...
絵に込めたメッセージ	日本には四季や四季に合わせた行事があることを幸せと捉え、絵に表した。特に、日本らしさを伝えられるような行事を選び、少しでも日本のことを知ってもらったり、興味を持ってもらったりできるようにした。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
一人一人の考えや思いを大切にすること、友達と協力することの大切さやよさを実感することができた。思いが込められた活動だったからこそ、児童が主体的に活動に参加することができた。また、みんなでひとつの作品を作り上げたという達成感も味わうことができた。	児童の思いを、壁画を通してジンバブエの子どもたちに伝えることはできたが、子どもが直接伝えることができればもっとよい活動になったと思う。ICTやテレビ電話等を活用することができれば、実際に交流しているという実感がわいたのではないかと考える。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
元々、外国に対してそれほど興味があったわけではないが、調べ学習を進めていくにつれて時差の違いに気付き、ジンバブエは今何時頃かということに気がし、自分達の生活と比べる子が増えた。また、フォーラムに投稿された写真を児童に見せることで、本当に交流しているという実感を持つことができた。	ジンバブエについて深く知るよききっかけとなった。学校にある資料では情報量が少なかったため、フォーラムでのやりとりで知ることもあり、勉強になった。直接関わることの大切さに気付いたと同時に、英語力を高めたいと思った。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月	カードにローマ字で自分の名前を書き、教室や習字を背景に写真を撮った。その写真をフォーラムに載せて自己紹介を行った。	普段学習している教室や、自分達を書いた習字の掲示物の前で写真を撮ることで日本らしさを伝えたいというアイデアが子どもたちから出た。	総合3 国語3
テーマ学習	5月～10月	学校の図書室にある図鑑や世界地図などの図書資料からジンバブエの基本的な情報を集め、新たな疑問についてはインターネットで調べ学習を行った。	とても遠くにある国の友達と交流することに意欲が高まっていた。また、日本には四季があるが、ジンバブエにはないということに気付くことができた。	総合7
構図決定	10月11月	日本の四季、七尾の祭り、学校の行事を伝えたいという児童の思いを大切に、「四季に合わせた学校行事や地域の行事」があることをテーマである「幸せ」と捉えた。	絵を描くことに苦手意識を持っている児童もいたが、グループ内で「手伝うよ。一緒に描こう。」と声をかけ、協力して決めることができていた。	総合5
壁画制作	11月12月	グループごとに制作を進めていった。各季節の絵が境目で切れるのではなく、1年の変化をつなげて表現できるように色の塗り方を工夫した。	初めは思っている色を作り出すことにも悪戦苦闘していたが、児童同士が自分たちで働きかける姿が見られた。	総合8
鑑賞・振り返り	3月	1枚の絵が仕上がった感想を言ったり、日本とジンバブエの絵の描き方の違いなどについて話し合った。	まずは、色使いの違いに注目した発言が多かった。そして、絵から季節を考えたり、何をしているところかを想像したりしていた。	総合2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	今まで当たり前前に感じていたことが、当たり前ではないことに気づき、改めて日本のよさについて考えることができた。
異文化の理解	A	4	普段、関わりがない国について調べることで、興味を持って調べ、自分達との違いに気付くことができた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	3	ICT やテレビ電話を活用して、児童が直接交流することができればよかった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	図書資料やインターネットを活用して、ジンバブエについての情報を収集することができた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	4	学級内の人間関係は高まり、助け合ったり認めたりすることが増えたが、交流相手との関係が深まるような活動はできなかった。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	困っている友達がいたら、グループ関係なく、助け合ったり声をかけあったりする姿が多々見られた。
学習を追究する意欲	B	3	自分達の学校生活のリズムに合わせて、ジンバブエの友達が今頃何をしている頃かを気にしている児童が見られた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	4	構図や色使いなど、児童がこだわりを持って伝えたいことを絵に表すことができた。仕上げることで達成感を味わうこともできた。
作品を鑑賞する力	A	3	一人ひとりに細かい観点で書かせることはできなかったが、一枚の絵が仕上がった感想や、交流できた感想を話すことができた。